

2022年度 第2回 千葉市地域自立支援協議会運営事務局会議

場所 緑保健福祉センター 2階 大会議室

日時 2022年7月28日 木曜日 14:00～

出席者

中央区障害者基幹相談支援センター 管理者 伊藤 佳世子 氏

花見川区障害者基幹相談支援センター 管理者 近藤 秀登 氏

稲毛区障害者基幹相談支援センター 管理者 井出 孝子 氏

若葉区障害者基幹相談支援センター 管理者 伊藤 正彦 氏

美浜区障害者基幹相談支援センター 管理者 石野 誠 氏

特定非営利活動法人 ひだまり メープルリーフ 運営管理者 高柳 佳弘 氏

千葉市ひきこもり地域支援センター 事業責任者 平田 智子 氏

障害福祉サービス課 指導班 主査 谷口 昌隆 氏

障害福祉サービス課 地域支援班 主査 窄口 光和志 氏

障害福祉サービス課 地域支援班 川口 徹 氏

精神保健福祉課 精神保健福祉班 主任保健師鈴村 祥子 氏

稲毛保健福祉センター 高齢障害支援課 障害支援班 主査 奥澤 清城 氏

緑保健福祉センター 高齢障害支援課 障害支援班 主査 山崎 貴裕 氏

緑区障害者基幹相談支援センター 管理者 菅野 直子

緑区障害者基幹相談支援センター 江澤 嘉男

緑区障害者基幹相談支援センター 團原 千春

【議題】

1. 各基幹地区部会の報告への質問等

中央区基幹) 65歳移行支援事業 65歳を迎える前にあんしんケアセンターと介護保険の相談をできる事業を始めている。(サービス課から情報を一斉メールにて通知をしている)

花見川区基幹) 地域部会の活性化をするにあたり、拠点登録した相談支援事業所に事例をあげて貰い、地域での共有と登録事業所の加算取得にも活用していただく機会と考え取り組んでいる。地域で支援困難、結果的に地域と上手くフィットできない事例を検討。さまざまな意見が出たが、共有のケースだとケースをよく知るスタッフに差し替え出席する等積極的な機関・事業所もあり、共通項をどれだけ見出せるかと考えている。

8月の夏休み期間中、県立千葉特別支援学校で、通学区である花見川、美浜、稲毛区基幹が学校へ行き、先生と基幹との理解を深める機会を作る。基幹の理解と80-50は学校の時代からずっと繋がっているということを毎回伝えている。

稲毛区基幹) 運営事務局会議と基幹の報告を行ない、基幹より事例をあげ話し合いをしている。子どもが3名おり、3人とも発達障害。SSW、医療、計画相談支援事業所、放課後等デイサービスなどたくさんの方が関わっているケースの検討をした。

高柳さんからもたくさんのご意見をいただき活発な意見交換ができた。

若葉区基幹) 計画相談支援について保護者より聞き取りをして頂き”計画相談員がいて良かったが、相談員を増やす、相談の窓口を増やすというよりもGHを増やして欲しい。実際に支援に当たれる場を増やして欲しい。”という希望が上がっていた。

事例検討では複雑な経過(性被害等うけた)のある方への支援について検討をした。主に訪問看護さんが関わっている。今日、支援会議を実施しているのでまた経過を聞きながらすすめたいと考えている。

配偶者関連スーパービジョンへ参加し、開催主催が「ちさと(DV相談)」等をやっている方で、こういったケースを相談しすすめていっても良いのではないかと考えている。

子ども(小学生、未就学児)どこか通える場所はない?というケースがあり、今年度から児童家庭支援センターさんにも参加いただいている。児童家庭支援センターで相談ができるとのことだったのでまた新しい連携機関、支援いただけるところが増えた。

10/6 消費生活センターが開催する詐欺等を防止する本人、支援者向けの講座を開催します。チラシができましたら、メール等で報告します。

緑区基幹) 私共の法人が9月末を持ちまして基幹相談センターの運営をおりさせていただくこととなりました。

是非介入して欲しいというところまでの相談ではないが、ヤングケアラーの相談がSSWから聞こえてくるようになってきている。

土気南小学校の特別支援学級に肢体不自由のクラスができ、経鼻経管栄養の方が一人入られました。サポートの仕方と通常の袖ヶ浦特別支援学校との違いがかなり鮮明に見えてきている。教育の中味、支援の仕方など今後の課題になるのかなという事が見えてきている。このあと6年間でその子がどのような形ですすんでいくのか。

地域の課題として社協の方とお話をした際に、「緑区の課題として交通網が少なく不便」とあった。緑区内2カ所ほど通信販売をやっている所がある。時代背景としてインターネットを使えば何でも買うことができるようになってきているが、地域のコミュニティが弱くなるのではないかという話題もでてくる。

見えない引きこもりの方が今後出てくるのではないかという話が出てきている。

美浜区基幹) 引き続き参加いただいている委員さんから活発に意見をいただき、できるところからやってみようかと皆さんに共有をしながらすすめている。

前回の中で医療的ケアコーディネーターとして藤本が動いており、部会でも出ている「災害時への対応」の流れから「美浜区の災害対策を考えよう」と地元の民生員さんを含め幅を広げて考えてみようとする。千葉市で行なっている「EVサポーター制度」の周知はどれくらいできているのか。もっと何か発信をし、周知できるとよいのではないかと話題が出ていた。具体的にできそうなことからやってみようかと意識を進めている。

各区によってすすめ方が違っている。基本的にはケース検討をしていると思うが、それぞれのカラーが出てくると思う。

緑区基幹) 「グループホームを探して欲しい」と連絡があった。相談支援専門員さんが付いていたので「相談員さんに話してみてもいいですか？」と伝えたところ、「どこもいっぱいです。と言われ終わってしまった。」という相談があった。

同一事業所内での相談員さんにお話をする時の難しさを感じた。

皆さんはこういったケースの際にどのように対応をしていますか？こういう話は千葉市に相談はありますか？

窄口氏) 探しているけど見つからない？

緑区基幹) 探す前に「いっぱいです」で終わってしまった。

窄口氏) 最近はあまりない。基幹さんで捌いて頂いているので・・・以前は定期的にあったが最近
はあまりない。

緑区基幹) 基幹としてどこまで介入をするのか?の難しさがあると感じている。相談員さんが付
いており、結果的に計画を作るのは相談員。「こことここに GH があるので話をしてみてください。」
と情報を出した時に、どうも言いにくそうな印象をうけた。そういう時に、相談支援の方に情報をす
るべきなのか、相談をされた方が今後立場上話がしにくくなるのかと考えてしまう。みなさんはど
のようにされていますか?

若葉区基幹) 状況が分からないので相談員と情報の共有をしても良いか?と確認をしています。
その後必要に応じ情報を提供している。

稲毛区基幹) グループホームに現在入居している利用者さんから「新しい所を探して欲しい」と連
絡があり、「計画相談支援事業所さんに聞いてみては?」と伝えたところ「聞けない」とあり、「こち
らから相談支援専門員やグループホームの管理者さんと情報共有をしても良いか?」と確認をし
たところ電話を切られてしまった。ご都合が良くなかったのか、連絡をとられると思った瞬間に切ら
れてしまったのか。十分、聞き取りができなかったのかな。と感じた。

花見川区基幹) 相談者側から「相談員を替えて欲しい。相談員に相談できない」という話を聞くと、
相談員の役割は?ということをお相談員さん自身も考えて欲しい場合がある。相談員が付いている
ケースには、当事者と事業所との間を取り持ったり、調整をする必要があれば介入もしなくては
いけないと感じている。相談員がどういう役割を担うべきなのか、事業所の底上げを含めて考えさ
せられることがある。

中央区基幹) 計画相談員との援助関係の調整と思うが、その調整となると我々の仕事かなとは
思う。一方で「社会資源がない」と終わってしまうこともあるようだが、そうならないようにすることも
必要だろうと思う。見相から全ての基幹に連絡があったケースのように「社会資源がないですね」
で終わってしまっても良いのか。その時にどういう対応をしていくのかと考えなくてはならないのでは
ないかと感じている。

緑区基幹) すごく難しいなと思うのはあっせん調整の役割があるのは重々わかりつつ、相談をし
てきた方に「こちらで聞いても良いですか?」と伝えた時に「あ～それは・・・」と言われてしまうと入
れないという現実が出てくる。理論上は良く分かるが。「ないですね」と言われるのか「そうですね
～確かに色々探してはみますが難しい所もありますね」と言われるのかと相手に対しての答え方
も力量を問われると感じている。人相手なので難しいと思っており「(相談支援員に)言って欲しく
ないです」と言われた時にどうしたいかなと迷ってしまった。「いくつかは空いているが、お子さんは

どんな方ですか？と聞きながら、(特徴に合いそうなところの)情報を提供し、相談員に伝えてみてはそうですか？」と伝えても「言えません」と言われてしまうとそこで終わってしまう。そのあたりの難しさは、人と人なので難しいのかなと感じるが、こういったことの相談が役所には入るのか？

稲毛区高齢障害支援課) 相談支援事業所へ連絡してもいっぱいいっぱい(計画相談を)受けてもらえないという相談はちらほらある。最近では「療養介護を受けている方で家族と連絡が取れない」病院からの相談があった。相談支援事業所が付いているが、相談員が長期で休んでしまい家族と連絡が取れず困っているという連絡があった。事業所に計画相談をお願いしていると捉えているので他の相談員さんに相談してみてくださいとお伝えしている。

緑区高齢障害支援課) あまり件数は多くはない。事業所によっては特定の相談員との関係悪化などの相談があった。事業所として受けていただいていると思うのでまずは、事業所さんと話をしてもらおうとお伝えをした。

事業所も複数でやっている所と単身でやっているところがある。ヘルパー事業所さんに「相談をしたが上手くいかない」といった相談はありますか？

高柳氏) 相談員さんが親身になってくれており、言いにくいのだが事業所やグループホームの担当の方が一生懸命で、本人おごなりの支援になっている気がする。本人と家族が置き去りになっていると感じる。相談員、グループホーム、事業所の話が盛り上がってしまってニーズにそぐわない形で入所しちゃうような相談は受けません。短期入所先で1か月に1回2~3日預かってくれるところさえあれば今のところ生活は成り立つ。グループホームは先々のニーズとしてはあるが、今がチャンスとすすめられてしまった。今利用している施設もやめた方が良いでしょうか？と言う相談を受けることもある。行動援護事業所なので、事業所の数としては少ない。相談支援事業所から本人、ご家族へ向けて移動支援事業所で良いので受けてくれるところを探そうという提案があった。以前、ある移動支援事業所で失敗してしまったのに、新しいところなら・・・と強く相談支援事業所に言われるがどうしたら良いか？という(移動支援を利用することへの不安)相談があった。

相談しにくいのであればこちらから「行動援護でも今は対応が難しい状況が続いているので、今はちょっとストップしませんか。」と間に入ったりすることはある。(実際は落ち着いている。)

緑区基幹) 気持ちの熱い相談員さんに限って”絶対こっちがいいんじゃない？”となりがち。相談員さんの力量、熱量があると思う。熱量のある人に限って頑張ってしまうのだろうと感じる。そういった相談(こうした方が良いのでは？と強くすすめられてしまった)があった時にやんわり相談員に伝えたりするものですか？

高柳氏) すぐには伝えないですかね。

緑区基幹) やはり、人と人なのでいくつかこういった問題は出てくると思う。「医者と相談員は相性なので代わったっていいのよ。」と伝えたりはするが、代われるだけのメンバーはいないのが実際かなと思う。完全に掴んではいないのですが、一人事業所はどれくらいありますか？何割くらい？千葉市は掴んでいますか？

窄口氏) データは掴んでいるが、今頭の中にはない。半分くらいは一人だったように思う。

緑区基幹) という事も千葉市の実際にあるということ。複数いても兼務であったりすると、どこまで入れるのか？ということもあるのだろうとも思う。相談員さんが増えないのはなぜか。お金の問題だけではないように思う。

本当に全員が相談支援専門員を使わなくてはいけないのか。相談支援専門員は制度としてはそれぞれにつかないといけない事になっているが。

市町村によっては、児童は変わっていくので、ほぼセルフプランでと言う自治体もある。しかし子どもだからこそ、相談支援専門員が付いた方が良くという事もある。どこを大事に考えていくのか。について千葉市との相談があるのかなとも思う。

子どもは増えていて、2歳半で繋がったらずっと続いていく。施設入所中の方に限ってなど条件によって、相談支援専門員をどう付けるのか等の整理は必要ではないかと考える。そうしないと相談支援の体制が潰れてしまうのではないかと感じている。この辺りは検討していただいても良い課題なのかなと考える。何かの機会にご検討いただけたらいいのかなと感じている。

緑区基幹) 80-50でひきこもりの問題が各部会で色々な話が出ていると思う。緑区の場合はこれから出てくるのだろう。ひきこもりセンターの相談の中では各区によっての違いはありますか？

平田氏) 区によってとなると、ひきこもりセンターが美浜区にあるので、美浜、中央は比較的多く、若葉、緑はひきこもりセンターのことを知らない方も多く比較的少ないように感じる。今若葉でサテライトを行なっていると、高齢の方は美浜までは行けないがサテライトでできるなら行ってみようと言う方はいらっしゃる。

花見川団地、中央区もある。とくにどこが突出しているという事はなく、少ないのが若葉・緑区。

若葉区の農業をされている方で家にひきこもりの方がいらして、お母さんが一生懸命畑をやっており、手続ができなくなり「税金どうしましょう・・・」という相談があったりする。生活自立仕事相談センターや福祉と連携をしながらすすめている。

なかなかひきこもりセンターだけでは80-50は難しい。包括や基幹との連携ケースが多くなっている。

緑区基幹) 何がどう違うか分からないが、緑区はあまり数が出てこない。

精神の方の相談は区によっての差はありますか？

鈴木氏) 手帳の取得数など区によっても違うとは思うが、ここで正確な数のお答えは難しい。

緑区基幹) 区によって違うこともあるので、区の課題も同じレベルで話ができること、できない事があると思う。

緑区で感じているのは、完全なひきこもりではない。パラサイト的なひきこもり。好きなことには出て行く、手伝いは出来る、買い物はする。でも仕事などはしていない。

親だからご飯は食べさせる。親だからタバコくらいのお小遣いは出す。私が困っていると運転をしてくれる、買い物も行ってくれる。という相談がちらほら出てきている。

こういう人たちはひきこもりセンターの相談にはのらない。

ハローワークの お金をもらい資格を取る事業 を使い資格はたくさん持っている。しかし仕事はしていない。孤立もしていない。困っているのは親。その時になったら動き出すのか、親の遺産で暮らすのか。

大きな課題が表面化していない。情報も持っている。友だちもいるので友だちと飲みに行く。完全なひきこもりではない。

親からの相談はあるが、人が自宅に来ると暴れるのでと家に行くことができない。

相談支援専門員のことなど共通で考えられるいくつかはあるので、この後千葉市と相談ができると良いだろう。

2. 拠点コーディネーター

中央区基幹) 地域生活支援拠点の中で、支援がないと80-50は乗り切れないような方たちを名簿で管理するかどうかは決まっていないが、そういう方たちの把握を各基幹がしている。その人たちだけを切り取っていないのが現状だろうと思う。その中で役割分担を確認したいという目的で計画相談支援事業所にリーフレットを出そうかと考えている。

既に計画相談が付いている方は、相談支援専門員にある程度のクライスプランを考えていただき、それでも難しい方については、基幹に相談いただくというもの。

もう一つは、相談支援やサービスに繋がっていない方について基幹で地域生活支援をコーディネートする事になるので、基幹でやります。という内容のもの。

緊急に短期入所が必要という家庭になると調整がととても大変になる。緊急にならないための支援を考えて欲しい。

運営事務局会議で確認がとれたら、相談支援事業所に発信したいと考えている。

花見川区基幹) 地域部会や意見交換会で説明をすると思うが、「あらかじめ支援計画」に入れてください。となると、具体的なサービスを計画書に入れ込まなくてはいけないのでは?という解釈

になるように思う。具体的なサービスが必要な方、緊急時の事は頭の片隅で考えてくださいねという方もいると思う。その部分をどのように伝えるか、温度差が出ないように伝えて欲しい。

緑区基幹) クライシスプランを計画に落とし込むとなった時に使っていないサービスを計画に記載し支給決定をしてもらうのではなく、関係機関が家庭状況等を共有し、緊急の時に連携がとれるようにすることが大切ではないかと感じる。区の窓口の担当者に知っておいてもらうことは必要だろう。緊急時に後先の支給決定ができると緊急時に対応ができる。ただし、区分が出ていないような人はなかなか難しいか。

花見川区基幹) いろんな段階があると思う。まずは話し合いから始める人もいるし、サービスを支給してもらう人もいる。その幅の広さを一律に考えサービスを支給してもらえば良いとは思わない。発信側がそのあたりをどう伝えるか。

緑区基幹) 各区の担当の方にも、この辺りを知っておいてもらうことは大切だと思う。区分が出ていない人がギリギリまで頑張ったが短期入所やサービスが必要になる方もいるだろう。区分出ていない人の後先のサービス支給は可能か。

中央区基幹) 基幹の緊急があるので、まずはそこで短期入所を使いサービスに繋げると言う話だったと思う。

緑区基幹) そこだけで済むのか、区分決定までは時間がかかるのでその間はどうか。タイムラグを千葉市と協議できていないと支援が途切れてしまうのではないか。

中央区基幹) 各区の基幹と区の担当との話し合いが必要だろうと思う。また千葉市の中でも話し合いが必要なことだと思う。支給決定を各区の担当が出して良いのか。暫定で支給を出してもらったり、区分はないが体験で取ることができるような方がいいが、サービスそのものが申請されていないとなるとどうにもならない。基幹の緊急枠でやりましょう。と中央区とは話しは付けている。それは各区でやらないといけないと思う。

緑区基幹) その部分を各区でやるのか、区と基幹とで話し合いをしコンセンサスをとっておかないと主査が変わった時に分からなくなってしまうと困ると思う。

花見川区基幹) 相談員から基幹に求められる内容だろうと思う。区によって対応が変わるとなるとは困ってしまう。基幹が共通して同じ答えを持っていないといけない。その為には市、各区の対応がバラバラだと困る。基幹と各区、サービス課が上手くかみ合っていないとバラバラになるだろうし、相談員は困ってしまうと思う。

緑区基幹) その辺りのルールの明確化は必要だろう。市と各区の査査、基幹との話し合いは必要なのかもしれない。そういった部分を基幹として答えられる仕組みを作る必要があるだろうと思う。

花見川区基幹) 緊急の時に拠点に連絡をすれば、何とかなるというシステムではないことはご理解いただきたい。その為のクライシスプランであること。緊急度によつての対応に差が出るようなことがないようにしないといけないと思う。

緑区基幹) お知らせを出した時に、話し合いができるようにしないといけないと思う。

美浜区基幹) 拠点コーディネーターは毎月打ち合わせをしており、一部市内の相談支援事業所の質はどうか?と耳にしている。質の担保の中で緊急に対応できる相談支援の中で、我々は緊急になることがある程度予測されることであっても各相談員が予測ができず、ワーっとなってしまうのであれば、早めに緊急時に対応できる態勢を家族、当事者と事前に話し合いをイメージしておくことが大切ではないかと考える。このお知らせで全てが解決できるわけではないが、市内の相談支援事業所の質を上げるきっかけとしたい。

その中に付随して、緊急時の支給決定のあり方の議論は必ず必要になると思う。拠点コーディネーターや基幹管理者ネットワーク会議と千葉市との間で支給決定のルールや将来必要だが今は使わないサービスの支給をどう考えるのかについての議論は相談業務をやっている者が、こういう支給をしてくれるとありがたい。ということを行政の方に伝え、その内容を行政の中で検討していただくというプロセスが良いのだろうと感じる。先送りではなく、近いうちにそういった協議ができれば良いと考える。

その中で、緊急時のこと支給決定における標準支給量を相談支援専門員それぞれが知っており、判断ができ計画書を作れるように基幹がバックアップできると良いのではと考える。そういったことも議論できる場が実現できると良いなと思う。

緑区基幹) このリーフレット1枚で多層的な多面的な話しが出てくると思う。この1枚を見て思いの意図を相談支援専門員が理解できるか。

中央区基幹) 意見交換会で見てもらったが、中央、花見川では意見が上がってこなかった。

美浜区基幹) この1つ前のリーフレットの時に「分かりにくい」という意見と「相談支援専門員の自分たちはどこの立ち位置なのか」という意見があり、それよりは分かりやすくなっているとは思ふ。

中央区基幹) 拠点とは?と言う話題になってしまったとも聞く。話を聞いていて”計画に入れてください”を”対応ができる方法をあらかじめ考えていきましょう”に変えようと思う。

明確にしたいのは緊急時対応まで目の前のサービスをどうするのかという内容よりは、中長期的の話を検討事項とし話し合いをすることが大切だと思う。サービスを使っている方については、話し合いをする際に計画相談員の方が一番適任と思うのでその確認と考えている。

高柳氏) 相談支援事業所の皆さんには”緊急時の対応をあらかじめ検討し、次に親亡き後の暮らしについても検討”となると 緊急時=親亡き後 と勘違いする方がいるのかなと感じる。ライフプランの計画を考える。今の利用者さんのライフステージを意識したプランの作成をする。と表現した方が分かりやすい。

親亡き後の暮らしを意識できる方は60歳を超えないと難しいと感じている。60歳を超えても”親亡き後親あるうち”にと言わずずっとやっても”この子の記録”や”パーソナルの記録”をやるようにと10年前よりずっとやってきても、契約している100人中「やりました。」と言った人は1人もいない。全ページ書いた人は一人もいない。パーソナルの名前を書くだけでもいいから・・・と言っても書いてくれない。意識をするようになると「もう体力がないので書けない。」と言う。先々を見通すという事は保護者にはなかなか難しい。反対にお話をすすめようとしても、次のライフステージという意識をしてもらうくらいでないと難しい。

自閉症協会で話をした時に、下は小学校6年生から上は50代で難しいと感じた。「思春期、思春期以降、青年期、成人期、老年期の大まかな括りがかまわないので、今の次に必要な緊急時のあり方を考えていただけると良い。」と話をした。

中央区基幹) ”緊急時の対応をあらかじめ検討して下さい”と1つで良い。研修や意見交換会では”中長期的な事は検討を視野にいれて考えてください”は多くの相談員は考えているとは思う。”中長期的な緊急時の対応の検討”は基幹から言い続けることにします。

緑区基幹) 計画書の中には短期目標と長期目標とあり、話し合いをするはず。その部分の聞き方をどう工夫しているかについて、意見交換会で話し合いをしてみても良いかなと思う。

3. 千葉市基幹ネットワーク・スタッフ研修会の報告

花見川区基幹) 各基幹相談支援センタースタッフ同士なかなか交流がないこと、お互いに高めあう機会、基幹の理念的な部分の理解をという目的で実施。2回に分けて実施している。

7/1は夜に時間帯 17名参加、7/7は日中の時間帯 18名参加

窄口氏や中央区荒井氏より基幹立ち上げの経緯等を直接聞く機会になり良かった。

美浜区基幹) 市の方より思いを伝えていただき、皆意識が変わったと感じる。ありがたかったと感じる。また基幹以外の事業でもこういった機会があれば良いと感じる。官民共同というのはこう

いう事なのかなと感じることができた。これで終わりではなく、基幹職員のレベルの差があるので、今後も2～3回の研修が検討できれば良いと思う。

窄口氏) 管理者の方との関わりは多いが、他の職員の方とは関わる機会がなかったので、とても良い機会になったと思う。事前に運営指針を見ておいてと伝えた。基幹の役割を認識頂いたと思う。管理者の方も少し仕事を部下に下ろせるのではないかとも思いました。

緑区基幹) 行政の方は異動なされた先々で”こういったことがある”ということを広めていただくとありがたいなと思います。

4. 千葉市基幹ネットワーク会議・強度行動障害を考える研修会暮らしの場会議の報告

花見川区基幹) 強度行動障害を主な理由として支援が難しい方の支援を考える会として、県の“暮らしの場支援会議”について学んだ。そもそも袖ヶ浦の事件から出来たものであるが、千葉市から上げた事例がことごとく却下されている現状がある。暮らしの場支援会議とは耳にするが実際にはどんな場なのかという事の勉強も含め設定した。

16名が参加。福祉サービス主として知的障害重度の方を担当する5名、特別支援学校2校、市の職員、発達障害者支援センター、基幹、講師。講師は さいさくさべ所長 佐藤氏が暮らしの場支援会議の委員でもあるので講演していただいた。

実態の洗い出しがないと話が進まないのではないかとということで、今後対象になる方の調査の必要に触れられた。アセスメントの取れていない中であげたものは対象ではないと言われてしまう現実があり、どのようにすすめれば官民共同での方向性が一致し上手くコラボレーションしながらアセスメントをして暮らしの場支援会議を通じて、適切な居場所を確保できるかという解釈で取り組んでいくという話が出た。

単発ではなく各区の自立支援協議会の流れを通じて継続して取り組む必要があるのだろうと一致した。

緑区基幹) 高柳さんが良く「強度行動障害にならないように育てなければならない」と言うが、子どもの時の支援は大事と感じている。印象的だった言葉は発達障害者支援センターの仲村さんが「最近の児童発達支援、放課後等デイサービスの方たちがどういう声かけをしたらいいですか?と言う」と話していた言葉でした。

声かけが必要ないケースもいっぱいある。声かけがあることで混乱してしまう。声かけの仕方については色々あるが、“行動・行為を止める”が伝わらない。

事業所の中で障害特性をどれだけ分かっているのか、特性を見抜いて対応ができているのかというのは千葉市の課題も大きいのかもしれない。事業所によって力の差があるのも確かだろうと思う。その辺りは難しい。強度行動障害はある意味作られる。医療との連携も必要だろうし、年齢

によって表に出てくる特性が違う。そこを見誤ってしまうと対応が全然違ってくる。課題が大きいし、壁が高いのかもしれないが、その辺りを私たちも知った上で相談支援専門員の方に伝えられるようにしないといけないと思う。

中央区基幹) 市内にはどれくらいの強度行動障害の方がいる？良く分からなかった。実態がわからないと支援体制を作るのは難しいと思う。千葉市外の事業所が受け入れてくれないとなると、行き場のなくなる方がでてくると思う。強度行動障害の方を家族が見るにしても事業所が見るにしても地域の関係者が力を合わせないとかなり厳しい状況にあると会議の中で感じた。壁中便まみれにしてしまう人だと・・・施設でも心が折れてしまう。ご自宅はもっとだろうと思う。虐待も当然起こりうると思う。暮らしの場支援会議にあげられないとなると、市内の福祉施設どこも受け入れるところはないだろうし、暮らしの場支援会議の協力21施設が千葉市は1つもないとなると市内の方については行き場がないとはっきり分かる。支援体制を作るにあたり、実態調査は必要だと思う。人数によって取らなくてはならない対策は違うと思う。人数が少なければお願いしながら何とかやれるかもしれないが、人数が多くなってしまくと支援体制が組めないと考えている。

高柳氏) 行動援護の得点10点以上、強度行動障害の得点18点以上。10点の人が急に18点にはならないと思う。何点以上の方が何人くらいいるのかを示していただくと良いのかなと思う。強度行動障害支援者養成研修の中では、12,000 人に1人。そこに当てはまらないが行動援護の対象になっている方が 8,000 人に1人と情報を貰っている。千葉市においてもそのくらいなのかなとは思っている。ただし、中核指定都市や政令指定都市になると暮らしやすいので集まってきやすい。たいして受けていないと思っても30名を超えて行動援護を受けている。他の事業所も増えてきているがまだまだ受け入れる余地がある事を宣伝すると参画してくれる事業所が増えるのかなと思う。

窄口氏) データが頭に入っていないで今は分からないが、福祉システムを調べれば分かると思うので調べてみます。

江澤氏) 県の事業団の廃止に伴い、千葉市の方はどんな所に何人移行したのか。我々は触れることがなかったように思うがご存知か。

花見川区基幹) 最後の1人が決まって終結と聞く。

中央区基幹) 中央区は2名あり、その行き場については知っている。

緑区基幹) 稲毛区と若葉区に1名いたと思うが移行先は分からない。

江澤氏) その移行の経過、実態を皆で情報把握をしなければいけないと思う。そもそもなぜ千葉市の中の事業所に情報が来ていないのかと疑問に思う。

花見川区基幹) 今の情報開示について関連しているかもしれないが、私と伊藤氏とで障害福祉サービス課施設支援班を訪問し、暮らしの場支援会議へ千葉市があげたケースがことごとく却下されてしまったことから、千葉市のアセスメントに関してどうなのかについての質問と、協力する気持ちはある事を伝え、何とか良い形で協力できないかと投げかけたが、まだ返答はない。各区であげていくプロセスにおいて各区の担当の方が忙しく今回の研修でもあったが、他市ではケースワーカーが同行し、ケースワーカーからも情報が得られるが、千葉市はケースワーカーがこない。と知らされた。

千葉市の取り組みの姿勢はどうなっているのか。忙しいのは分かるが、私たちは協力をするという事を含めてどういう形が上手くいくのか。官民共同でやれないのか

個人情報の問題がそこにはあり相談はできない。という話だったので検討してご回答いただけますか。と言うのが5月だった。

本当は障害福祉サービス課の方へも出席をお願いしていたが、コロナがあり参加ができなかったので議事要旨だけでどれだけ伝わるのかなというのがもどかしいところ。

江澤氏) アセスメントというのは、新たに千葉市から上げられた方という事ですよね。

花見川区基幹) 却下されたということは、対象にならない方をあげていると暮らしの場支援会議から言われている。そこにはアセスメントがちゃんととれていない。あるいは暮らしの場の仕組みとしての18点以上をそもそも理解しているのか。と突きつけられている状態なのではないかと思われる。

江澤氏) 事業団の移行について護の実施者としての区は「暮らしの場支援会議」に参加していないのでしょうか？

更生園の移行はどのような形ですめられたのでしょうか。暮らしの場支援会議ではないのですか？

中央区基幹) 暮らしの場支援会議とは限らない。

江澤氏) 更生園と受け入れ事業所の合意のみでしょうか。

中央区基幹) 知的協会さんが仕分けを一部していた。基本的には直接更生園からご連絡があり、難しい時には区に相談があり、区から事業所へ相談が来たりして面談をしていた。

江澤氏) 少なくともその中には強度行動障害の方が何名か混じっているはず。その辺りの移行経過がどうだったのかの実態としてこれまでの実績として知っておきたいという思いがある。それを参考にしながら、今後の強度行動障害の対応を考えるうえでの参考にできると良いと思う。千葉に帰れないと言うのは大変なことと思う。

緑区基幹) 私の知っているケースは、とても自傷の激しい方だったのでその方たちがどこへ行ったのか。個人名でもありますし、なかなか聞けない。

例えば A さんがここへ行ったよ。となれば、あの A さんが過ごせるのは何が要因なのか。という事を知っておくべきだと思う。そこが見えない。知っている2人は、強度行動障害者棟にいた、3人いないとお風呂に入れないとされていた2人はどこへ行ったのか。

その方を受け入れてくれた事業所の方がどう対応したら受け入れられたのかを知ることで受け入れ側の施設にも こういうことができれば良いのではとなると思う。

中央区基幹) 個人情報の問題もあり、障害福祉サービス課の中で検討します。という事だった。暮らしの場支援会議にあげるにしても同意あるなしもあると思うが、そのあたりの調整を今していると北田さんは話していた。

緑区基幹) 良くも悪くも個人情報の問題が前面に出てくる。対応の難しい方が、どういう施設で受けてもらい、どういうところを気をつけたら上手くいったのか知りたいと思う。どういう形でも良いので伝わってこないものか。

千葉市はどこに行ったのかの把握ができていると思うが。どこが把握しているのかな。

窄口氏) 暮らしの場支援会議については施設支援班が担当しており、本日不在のためこの場で詳しい話ができないが、更生園の移行となると県の話になるので、県がどこまで公表するかになる。具体的に誰がどこにいったか。というのはデリケートな情報なので一般には公開されないと思う。

ただし、対象者の支援について何か困りごとがあれば市に依頼があると思う。依頼がないということは上手くやっていると捉えるしかない。そこを分析したいのであれば、県に聞くなりして対応の報告を求めるしかないかと思う。

緑区基幹) 個人名はもとより、どういった環境要因が作られたら良いのかの参考が違った形で出てこないかなと思う。A 事業所だとマンツーマン対応で、こういう感じの場所。というのは分かるが、こういうところに気をつけると落ち着くなどが見えてくるとありがたい。CAS などで色々な事をしてく

れることもあるのですが。県なので難しい所もあるのでしょうか。どこが、どうなれば上手くいくのか。どこが、どうで上手くいかなかったのかがボンヤリとしやすい。その部分をもう少しアセスメントでは何が足りなかったのか、どうアセスメントしなくてはいけなかったのか。予算との関係もあると思うので一概には言えないと思うが、いくつか課題が見えてきているのでその課題を精査するのも大事だろうと思う。

話し合う議題はこれで終了ですが、せっかく顔を合わせたので何かありますでしょうか。

基幹に色々な形でのお知らせのメールやパンフレットが届いているが、こういう方を求めている。と来ているが、お知らせの内容も千差万別です。

花見川区基幹) 施設支援班へ事業所のパンフレットを送ってPRに行き過ぎがあるかの判断をして頂けるかについて投げかけている。

緑区基幹) 株式会社は営利目的だし。線引きはどのあたりかと悩むところ。グレーな部分の難しさも出てくる

花見川区基幹) キャリアセンターとの意見交換会でも話題となり、利益誘導のような形の広告をやっているか、やっていないか就労系の事業所さんと意見交換をしている。

規制に引っかかるので、東京でダメなものは千葉でもダメ。としていると実際に聞いた。

緑区基幹) ピックアップして聞いていくと実際に判断は難しいのだろうとを感じる。ラインは必要なのだろうとを感じる。顔の見える形で色々な話ができるの良いのだろうと感じている。